

社会医療法人社団 三思会 リハビリテーション科 キャリアラダー

2020/4/1作成

※各々の目標設定に役立てて下さい

氏名:

日付:

| 段階 | その他 | 組織的役割遂行能力 | チェック | 業務能力 | チェック | 臨床実践能力 | チェック | 教育・指導 | チェック | 研修その他 |
|----|---------|--|------|---|------|--|------|--|------|---|
| 後期 | 牽引・リーダー | チームリーダーを担当し、チーム内の統率と連携を図ることができる。主要科内活動のリーダーが担当できる。 | | リハビリテーション科スタッフの中核となり、科内や部署内活動・委員会にて主軸となって発揮できる。 | | 全人的であり、かつ分析的治療を効率良く実践できる。困難な要求に対して、上位職員の指示の下、対応することができる。 | | 専門知識を追求し、セラピストとしての特色を高める。リハ科内全体への臨床指導ができる。新卒職員に対しての教育ができる。 | | コーチング |
| | 牽引 | チームメンバーとしてチーム内、科内業務遂行のための意見・提案ができる。科内活動のリーダー的役割が遂行できる。 | | チームメンバーとしてチーム内、科内業務遂行のための意見・提案ができる。科内活動を主軸となって遂行できる。 | | 論理的知識を基に応用・発展したプログラムが展開できる。 | | セラピストとして自己確立できる。新卒職員に対して治療技術の指導ができる。上位職員と一緒に新卒職員の指導が行える。 | | 地域活動の企画、講師 院内勉強会講師 報告会大会長 |
| 中期 | 実行 | 新入職者に対して実務プログラムの指導ができる。科内活動で上位職員、上司のサポートをすることができる | | 他職種と円滑に関わり、職員として独り立ちできる。業務過程を踏まえ、上司と相談して優先度の判断、個別での対応ができる。 | | 論理的知識を基に個性のあるプログラムを実施できる。担当以外の患者、利用者対応ができる。 | | 基本業務をひとつり自分で行うことができる。セラピストとしての専門性の向上、後輩育成を意識することができる。 | | 地域活動への参加 院外発表 院内勉強会講師 報告会座長 実習指導 臨床疫学 リーダーシップ研修 |
| | 気づき～発展 | 新入職者・実習生のフォローができる。科内活動で上位職員、上司の指示のもとサポートをすることができる | | 他職種と円滑に関わり、ルーティン業務を一人で遂行できるようになる。業務過程を踏まえ、上司と相談して優先度の判断、個別での対応ができる。 | | 再現性のある検査・評価の実践と安全にプログラムを実施できる。上位職員の指示のもと、担当外の患者、利用者対応ができる。 | | 目的に即した情報収集を行うことで質の高い自己学習を行う。治療を通して学習・経験したことを研究課題として発表できる。 | | 地域活動への参加(手伝い) 報告会発表 報告会運営手伝い |
| 初期 | 模倣～気づき | 指導、教育の下、治療や科内活動が遂行できる。 | | 各チームメンバーの役割を知ることができる。困ったことを上位職員・上司に相談できる。 | | 再現性のある検査・評価の実践と安全にプログラムを実施できる。患者・家族に対して社会人とし最低限の対応ができる。 | | 積極的に自己学習を行い、治療を通して学習・経験したことを上位職員の指導を受けながら研究課題として発表できる。 | | 報告会発表 医療・介護保険 |
| | 見て学ぶ模倣 | 新人教育プログラムを修了することができる。 | | セラピストとしての自覚と、社会人としての心構え・行動を指導や教育により習得する。リハビリテーション部門の業務を理解できる。 | | 指導や教育を受けながら、再現性のある検査・評価を実施できる。患者・家族に対して社会人とし最低限の対応ができる。 | | 先輩職員・上司の指導を積極的に受けることができる。社会人としての意識付け・目的を持つことができる。 | | 緊急時対応 リスク管理 BLS研修 報告会発表 |
| | 見て学ぶ模倣 | 新人教育プログラムに基づいて研修を行い、試用期間を修了できる。 | | セラピストとしての自覚と、社会人としての心構え・行動を指導や教育により習得する。リハビリテーション部門の業務を理解できる。 | | 指導や教育を受けながら、再現性のある検査・評価を実施できる。 | | 社会人としての意識付け・目的を持つことができる。 | | 社会人基礎力 新入職者オリエンテーション 部署オリエンテーション 接遇研修、感染対策 緊急時対応 |